



大高栄子

Ootaka Eiko

「いぬ・ねこネットワークワーク秋田」設立まで

ラツキ

はじめに

「弟が貰ってきた子犬をね、泣くからつてうちに連れてきたのよ。うちでも泣かれて困ってるの。だれか欲しい人いないかしら」

知人からの電話で、誰かに紹介しようと思つてすぐに見に行つた。見ると何と、小さくて、ぬいぐるみみたいに可愛いくて、思わず連れ帰つてしまつた。それがラッキーである。幸い数匹の猫がかかるがわる世話をするものだから、母犬からの分離不安で泣くことは全くなかつた。ただ、小さい頃から雷や花火の音、光を異常に怖がり、目をつりあげ、よだれを流し、戸や床をかじつたりひっかいたりして大変だつた。

平成6年9月、主人が病気で亡くなつた頃から、首輪をはずすようになり、3カ月後の激しい雷雨の日にいなくなつてしまつた。その時12才（表紙写真）。幸いにも、新聞配達員Sさんとの出会いで11日ぶりの奇跡的な発見を体験した。抱き上げたラッキーは、フワーツとして、まるで重量感がなかつた。もし見つけ出せなかつたら衰弱死していただろう。

私は、この事実を多くの人に知らせたいと思つた。同時に、連絡を取り合つて助け合える会があればどんなにいいだろうと考へた。

その後、知人の行方不明犬を自ら探すので探してみながら、広域の放れ犬を1年半位、観察した。親切な方達や、犬猫を助けるために献身的努力を重ねている方達の存在も知り、様々な境遇の犬達に接し、ますます、人と人との連携の必要性を実感した。

「ラッキーが元気であるうちに会をつくりたい」という願いを、平成9年9月に実現出来た日の安堵感も、忘れられない。

ラッキーは、平成12年7月1日、17才8カ月の天寿を全うした。悲しみは深いですが、少しでも、想いを語りつぎ、何らかのお役にたてたらと願つて、ミニ冊子をつくつてみた。



ラッキー



雷を異常に怖がるラッキーを気づかかって、美容院に行く日はいつも、天気の良い日に決めていた。

その日もそうだった。動物好きの美容師さんとの世間話が、この上ない楽しみの一つで、すっかりリラックスしていた。

途中、窓の外の景色が急変した。

ラッキーが心配で急いで仕上げてもらう。帰り道、雨は容赦なく道路に叩き付けてくる。雷もひどい。

「ラッキーはどうしているだろうか？」

無我夢中の運転で家に着いたとたん、全身の血の気がひけた。不安が現実になってしまった。玄関の戸があいいて、中の戸が破れ、ラッキーは首輪をはずしてもぬけのからだだった。

私は自分の責任の重さに押しつぶされそうになりながら、やっとの思いで家の中を見回した。外はまだ激しい雨が降り続いていた。



その日から捜索の闘いが始まった。

「尋ね犬・茶色・オス・12才・首輪なし」

ラッキーがいなくなつて保健所・警察署・周辺の交番・ラジオ・新聞の伝言板にメッセージを出した。ポスターも多方面に貼つた。道ゆく人達に声をかけて聞きまわつた。近所の犬友達に「見つけたら、連れてきてあげてね」と声をかけられると、泣き崩れそうになつた。車にはねられ、肉片になつて飛び散るラッキーの姿を幾度も思い浮かべては、かき消した。雷の恐怖で顔をひきつらせ逃げ惑う地獄絵も浮かんでかき消した。0.01%でも生きている可能性があれば、見つけてあげたい。

ポスターを持って新聞販売所を回り、Sさんと出会い、聞き集めてくれた情報で、ようやく見つけ出すことが出来た。

話題を追う

たった1人の搜索

昨年九月中旬、同僚の同市広面の自宅から引き籠りを食いちぎって脱走した雑種犬「コロ」(雄、三歳)と、今年四月十二日、同市東の平和公園を散歩中、知人からばれて行



行方不明の「コロ」

あきたネット

何年か前、「ミッシン」(行方不明)というアメリカ映画が話題になった。異国で動乱に巻き込まれ行方不明になった夫を、妻役の女優ジー・スベイクが義父役の俳優ジャック・レモンと一緒に搜索するという内容だったと記憶している。必死の搜索にもかかわらず、遺体収容所の片隅で夫のじぎからと悲しみの再会をする場面で観者は終わる。この映画と同じように、「行方不明者」を必死に捜している話が秋田にもある。ただし、秋田版「ミッシン」の「行方不明者」は大、献身的に他人の愛犬搜索を続ける女性の物語を紹介する。

この女性は、秋田市寺内、方不明になったシベリアン・ズキ(四歳)と、大高さん(五歳)の二匹が、搜索対象(捜している犬)の「コロ」(雄)と「チャン」(雌)だ。

■辛苦の体験が契機
大高さんの迷い犬捜しは



大高栄子さん

「に投稿したほか、「ラッキー」の写真や特徴を添えたチラシを同市内一円の秋田魁新報社販売店に配布。読者や新聞配達員に情報提供

「絶対にあきらめない」

他人の犬の行方追う ネットづくりにも力

—秋田市の大高さん—



行方不明の「チャン」

ネットあきた

が、辛苦に満ちたとき、周囲も、失跡場所の用中、心部から、上新城、下新城、イフワフ、左尾をえぎつ、飯島、金足、御所野を市かけになった。「機会があれば、自分が困っている人、内いまで直接、昨冬の搜索開始以来、直接面会した人、お役に立ちたい」

供を呼び掛けた。「コロ」がどんな「機会」はよく訪れた。「コロ」と「チャン」の捜索依頼は、経験上、まずいまま発見に至っていない。大高さんが上げた犬の手柄、もある。今年三月以来、本紙「捜している犬」をフルに生かし、休日はおもろい、平日は勤務後、地道な連絡で無事保護されるな間に込みを続けた。搜索

■延べ千人超に面会
「保護しています」の言葉を切り抜き、両者の顔役を捜している。実際に保護したとされたヒゲル犬の飼い主と連絡を取り確認されたところ、捜している犬と分かった。大高さんは犬の失跡は、ある意味で飼い主に対する犬のストレスの表れではないか。失跡の前兆を予知するのはもちろん、もっと飼い犬に目配せする必要がある」と訴える。

「最後まで絶対あきらめない」「コロ」と「チャン」の搜索とともに、大高さんは現在、市内全域をカバーする迷い犬の搜索ネットワークづくりに力を入れている。情報提供、問い合わせは☎0188・28・7750(昼間)、0188・65・7243(夜間) (社会部・吉田新)

放れ犬

知人の犬2匹を探していたが、見つからない。

1・平成7年9月不明のコロ（茶色オス犬当時3才）

2・平成8年4月不明のチャンプ（茶色ハスキー犬オス当時5才）



聞き回っているうちに、どんどん深みにはまった。

いたる所に、飼い主不明の犬がいた。右の写真3匹も町中にある放れ犬である（ほんの一例）。

数カ月から数年、その地に住み着いている犬から通りすがりのような犬まで様々。犬が動いている情報も探ればきりなく入ってくる。それほど捨てられている。最終的には、つないで飼ってくれる人に巡り会わなければ、いつ安楽死処分になるかわからない運命の犬達なのである。

どんな人間のそばにいるかによって、犬達の運命が大きく分かれる。

平成8年4月、私が保護したのは、私のすぐ身近で半年以上も放れ犬になっていた犬だった。

「セブン」と名付け、自宅の4匹の犬の仲間に加えた。長い放浪生活のため、つながれるのを嫌がり、長期間叫び声をあげ、近所に多大な迷惑をかけた。

私はセブンと格闘しながら、捨てられたり不明になった犬たちの会発足のための準備を始めた。



保護当時のセブン



現在のセブン

捨て犬 未然に防げ

動物愛護の会が発足

「あなた達は捨てられている犬や猫を保護して育てることが出来ますか?」。そんな状態の犬や猫を見る所々していることができず、ええと身元たり、保護したりしている、動物を愛する有志が「いぬ・ねネットワーク秋田」(工藤ヨシ子会長・五十八)を発足させた。犬、猫の愛護、情報交換などが活動の柱。飼い主のモラル向上を訴え、捨て(犬猫)を未然に防ごうことが究極の目的だ。

いぬ・ねネットワーク秋田

会員は秋田市、天王町、集まって組織をつくる(河辺町の動物愛好者たち)。とができた(と)訴え、知ネットワークづくりの人の犬を探す傍ら「人間探偵」仕掛け人、は事務局長を「し」にも奔走した。そして務める大高栄子(さん)さん。今年一月、ようやく十三秋田市。一昨年、昨年と、人の仲間が集まり、さら連続して知人の茶屋のハスにその輪が広がってネット犬などが行方不明にな。トワーク発足にこぎつけつた。八手を尽くして探た。

しても職員、行き詰まって、主な活動は犬、猫の愛護しまし「何とか組織した」と捨て犬(猫)の防止、秋田捜索ができないものが、田市を五十三ブロックに分

感じた。そんな折、捨て犬(猫)た五十五ブロックに散らばる。天王町と河辺町を加え、ついている会員が電話で連絡な人に遭遇、「こんながを取り合い、保護や捜索か

飼い主のモラル向上訴え

ら里親探しまでを行う。会ネットワーク秋田に連絡がある以外でも、愛犬(猫)がれば、捜索活動の手助けも行方不明になった時は、ネ。ネ。ネ。



二十五日、秋田市のゼリオンで開かれた発足会では「捨て(犬猫)が多い昨今、犬猫のしつけ作り、人間の教育が先決ではないか」と訴えてもいい」という免許制度も必要と思う(秋田市・大日向明子さん)、「かわいそうな動物が一匹も出ないように捨て(犬猫)を育て、里親探しも行っている。大館市や六郷町の人が里親になってもらっているが、今では里親付き合っている(秋田市・渡辺千枝子さん)といった報告があった。

工藤会長は「今後は各種団体と連携を取りながら、会員の輪をどんどん広げていきたい」と語り「保健所に捕獲されるを三日で保護処分されることを飼い主は十分認識してほしい」と訴えている。

「いぬ・ねネットワーク秋田」への入会希望者ははがきで〒011、秋田市寺内字三千四四九ノ四、大高栄子(さん)まで。

「いぬ・ねネットワーク秋田」の発足会

思い出のアルバム

ラッキーは、^{3.5}キロ離れた官用地の真ん中にいた。私を見つけ、大声で泣いた。

しかし、家に帰っても、こりなく首輪はずしが続いた。胴輪にしてもはずす。考えあぐねた末、胴輪を逆さにつけた。

大成功！

ラッキーは、おりこうになった。

世間は、連日のようにオーム事件で煮えくり返っていた。







おわりに

「ラッキー」といって、不思議なくらい穏やかな気持ちになった。

限りなき勇気とエネルギーの豊かな泉がいつでもそばにあった。ラッキーが見つかったから、天寿を全うするまでの5年半の月日は、人の力を信じて、人に感謝して生きていくことを、私に教えてくれた。

大高栄子 & ラッキー

